



うちのイチ押し!

今月号に掲載している講座・イベント・展覧会の詳しい内容を、その事業の担当者が直接PRするコーナーです。

大阪市生涯学習情報発信ウィーク

11月19日(土)～29日(火)まで、市役所玄関ホールで市内各施設や区役所、小学校で実施している生涯学習事業を紹介します。

2011大阪市生涯学習ルーム ふえすていばる

11クローズアップ
テーマ 『24からの発信「心ひとつに!!新たな一歩。来て見てまなんで楽しんで。」』

内容

大阪市では、地域における生涯学習の拠点として、市内の小学校の特別教室等を活用して、市民のみなさんの文化・学習活動や講座等の開設を通じた学習機会の提供を図る「生涯学習ルーム事業」を実施しており、今年で23年目を迎えました。

24区の特徴ある舞台発表やブース展示、体験コーナーやフォーラムなどを行い、生涯学習ルーム事業について広く発信します。

ステージプログラム

- 24区ルーム活動発表ステージ
- わんすてっぷ・フォ〜ラム
- 音楽団コンサート(19日のみ)



24区ふれあい広場

- 24区作品等展示ブース
- 体験コーナー



「24区ふれあい広場」(写真・下)と、発表ステージ(写真・上)
※ともに「ルームふえすていばる」より

日時 平成23年11月19日(土) 11:00～16:30(10:30開場)
20日(日) 10:30～16:00(10:00開場)

会場 大阪市役所玄関ホール・市民ロビー(地下鉄・京阪「淀屋橋」、京阪「大江橋」)

費用 無料(一部教材費が必要) 問合せ 6208-9027 教育委員会事務局(生涯学習担当)

主催 大阪市生涯学習推進協議会・大阪市教育委員会

HP <http://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/page/0000142171.html>

ふれて学んでつながろう! ～自律と協働の生涯学習社会～

パネル展示やチラシ、映像など、「学び」の情報が満載の1週間です!

11月22日(火)～11月29日(火) 土日祝を除く
9:00～17:30(ただし、最終日は13:00まで)

場所 大阪市役所玄関ホール **入場無料**

問合せ 6208-9146 (教育委員会事務局生涯学習担当)

歴史ぶらり散歩

要申込 本誌p16

歴史ぶらり散歩 ① ～中之島の蔵屋敷跡をめぐる～

日時 11月22日(火) 13:30～15:30

歴史ぶらり散歩 ② ～中之島の近代建築をめぐる～

大正ロマンあふれる中央公会堂の特別室を見学できます!

日時 11月25日(金) 13:30～15:30



中央公会堂特別室の天井画

ランチタイム企画

■各日 13:10～13:40

※都合により時間が変更になる場合があります。

■入場無料・申込不要

11/24(木) インド古典舞踊
パラタナティヤム
出演 インド舞踊スタジオ
プラーチー

11/28(月) タップダンス
出演 タップダンサー
上野真二

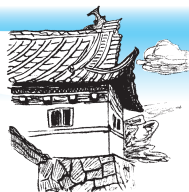
11/22(火) ハワイアンフラ
出演 フラハラウ
アロハホク良子

11/25(金) 大阪市音楽団
～木管アンサンブル～
出演 大阪市音楽団

11/29(火) イングリッシュ
ハンドベル
出演 ヘルリンガース
「ミルフィーユ」



インド舞踊
スタジオ プラーチー



おおさか歴史探訪 52

大阪の史蹟や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

立川文庫 —みんなが熱中した文庫本—

秋も深まり、読書には絶好の季節となりました。IT万能の時代、電子図書なども人気のようで、「灯火親しむ秋」の風情も様変わりしてきました。今回は、明治末期から大正末期にかけて、丁稚さんから小中学生まで、みんなに大人気だった「立川文庫」について紹介します。

出版社は立川熊次郎という姫路の農家出身者が経営する立川文明堂で、現在の中央区南本町3丁目に小店舗を借りて旗揚げをしました。立川文庫は小型の文庫本で、縦12.5cm、横9cmといますから、現在の文庫本よりも少し小さいサイズでした。第1冊の『諸国漫遊 一休禅師』が明治44年に刊行され、大正13年までに196冊が刊行されました。作者のうち中心となったのは玉田玉秀齋という講師でした。

主人公は水戸黄門、荒木又衛門、真田幸村、宮本武蔵、後藤又兵衛といった「国民的英雄」が多く、世の権力に反抗しこれをからかい、そしてやっつけるという筋書きが中心でした。『ロビンソン漂流記』のような文芸ネタもありました。ふり仮名付きの活字がびっしりと詰まっていて、少年たちがわくわくするような楽しい本でした。1冊20銭と安価であったこともあり、大正5年に出版された「不朽の名作」『猿飛佐助』は、100万部が売れ、全国に忍者ブームがおきました。

立川文庫の大流行は、大阪の出版文化の隆盛を物語るとともに、大正ロマンの時代の雰囲気を感じることのできる出来事のひとつといえるでしょう。



最も人気のあった『猿飛佐助』
(表紙にはアゲハ蝶の印刷。写真は複製版。)



立川文明堂が
あったところ